



公益財団法人横須賀三浦

# 教育会館ニュース



2026.1.1 No.198

TEL・FAX 046(824)0683 HP:「横須賀三浦教育会館」で検索

## あけましておめでとうございます

～平和を願い教育文化の発展を～

昨年は、大規模修繕工事を実施し、4月からは装いを新たにリニューアルされた教育会館でのスタートができました。また、コロナで落ち込んでいた教育会館ふれあいコンサートの会員数は、110名を超えることができました。これらは、みなさまのご理解と協力があったからこそです。本当にありがとうございました。

さて、世界を見回すと、アメリカが仲介役となって停戦に向けた動きがでてきているものの、ロシアとウクライナ、イスラエルとハマスが今後どうなっていくのか、まだまだ予断を許さない状況が続いています。ほかにも、インドとパキスタン、アメリカとベネズエラの対立や、宗教的な対立に起因するテロ事件なども起こっています。テレビからは、破壊された建物群や泣き叫ぶ子どもの悲惨な映像が連日のように流れました。

教育会館では年初めに、子どもの権利条約カレンダーをホールに掲示します。子どもの権利条約には、4つの原則があります。「差別の禁止(2条)」「子どもの最善の利益(3条)」「生命・生存・発達の権利(6条)」「聴かれる権利(意見表明権)(12条)」がそれです。いったん戦争が起これば、権利は奪われ、弱い立場の子どもたちが一番の犠牲になります。

2026年が明けました。何としても戦争のない平和な時代にしていきたいと思います。当教育会館は「平和を願い教育文化の発展を」をテーマに活動を展開してきました。平和なくして教育文化の発展も子どもの未来と幸せもありません。今後も、地域から平和を願い教育文化の発展を期し、活動していきますので、引き続き、みなさまのご理解と協力をお願いいたします。

2026年元旦

公益財団法人 横須賀三浦教育会館

理事長 齋藤辰二

教育会館ふれあいコンサート

## 2026年度出演者が決定しました

### 身近で聴く生演奏の魅力

第103回(5月31日)



加来 徹  
(バリトン)

「素晴らしいです。言葉になりません。一曲ごとに曲の世界に引き込まれていきました。マリンバが大好きになりました」「武本さん(ピアノ)との共演も息がぴったり、ラプソディ・イン・ブルーはしびれました。後半のピアノも本当に良かった!!プログラムが好きな曲のオンパレードで言うことなし。また聴きたい」。これは、9月に開催した塚越慎子マリンバリサイタルの感想です。

演奏家たちからは、「この会場は近くで熱心に聴き楽しんでいる観客の様子が伝わってくるのでやりがいがあり好きです」「お客様があたたかく、素晴らしい音楽空間で幸せでした」との声をいただいています。マナーの良さや曲が終わり感動したときの大きな拍手は演奏家に伝わりより素晴らしい演奏を生みます。

生演奏は、演奏家と観客が空間や時間を共有するものであり、観客の反応に応じて演奏が変化するなどして演奏家と観客との共感生まれます。会場が盛りあがり観客と一体となった時には、みんなが生き生きとした顔となり楽しんでいる様子が広がります。教育会館ふれあいコンサートの特徴は、生演奏を近くで聴き、演奏家の豊かな人間性を感じることができることです。

ふれあいコンサートを企画するにあたって、どの演奏者に依頼するかは大切な課題です。依頼する要件の第一は、演奏家が実力と魅力を備えているかです。聴衆の状況にも配慮し対応できる感性を備えているかも重要です。そのため、今日まで開催したふれあいコンサートの感想や関係者の意見を聞いたり、テレビやYouTubeなどで聴いたりして2026年度の出演者を依頼しました。

その結果、2026年度も魅力と実力を備えた演奏家に協力をいただきました。第1回はバリトンの美しい歌声。第2回は名器ストラディバリウスの豊かな響き。第3回は二胡とケーナの心に響く音色。第4回は歌うフルート&トランペットです。ぜひ、会員となって生演奏の魅力を楽しんでいただきたいと思います。さらに、家族や友だちなどにもお誘いいただければ幸いです。

第104回(7月26日)



高木 凜々子  
(ヴァイオリン)

第105回(9月27日)



野沢 香苗  
(二胡)



菱本 幸二  
(ケーナ)

第106回(11月29日)



荻原 貴子  
(フルート)



神代 修  
(トランペット)